

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
教義科	2	2年1・2・3類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		天理教教典・おふでさき	おてふり概要

科目の到達目標 教典（1学期・2学期）、おてふり（1学期・2学期）、おふでさき（2・3学期）、おさしづ（3学期）			
○天理教教典	後篇（第6章～10章）に示された教えの正しい理解を進めると共に、その教えを如何に個々の生活に現し、そこから生まれる喜びを他の人々に伝えていくことの大切さを学ぶ。		
○おてふり	7下り目から12下り目の地歌を唱えることの努力を求め、繰り返し“てなをし”することで、各下りの習得を目指す。		
○おふでさき	「第一号」を中心に学び、それに親しむことに重点を置き、その学び方の注意点を確認する。		
○おさしづ	日常生活に関わりのある内容のものをテーマとして与えながら（各担当者一任）、プリントを中心に「おさしづ」に親しみを持たせる。		

評価の観点と方法について			
○天理教教典	「てびき」「節（身上・事情）」「かしもの・かりもの」「ほこり」「いんねん」「たんのう」「ひのきしん」「誠真実」「よふばく」「別席」「さづけ」「教会」「陽気ぐらし」について正しい理解が出来ているかどうか。		
○おてふり	各下り（7～12下り）の地歌の暗唱と、“手振り”“足の運び”が身についているかどうか。努力しているかどうか。		
○おふでさき	「おふでさき」の概説、各お歌の正しい読み方と語句の意味、そして第1号冒頭や「みち」「ほこり」「水」にたとえられたおふでさきについて理解出来ているかどうか。		
《学期末考査（70点）と平常点（30点：おてふりのテスト、ノート、課題の提出、「お誓いの言葉」、授業態度）により総合的に評価する》			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	教典／前篇（1～5章）	1年次分を振り返り、2年次で学ぶ範囲を改めて確認する。	第1章から5章までは教義篇と呼ばれ、教義の粗筋が記されているのに対し、第6章から10章は信仰する者の教えの悟り方、通り方について勉強することを確認させる。	第1章から5章までの基本的な内容をどの程度理解出来ているか。
		▼おてふり よろづよ八首	▼どの程度正確に習得出来ているか。	▼一人でも振れる生徒は一人で、振れない生徒は補助をつけて行う。	▼正確に、或いは補助を頼りながらも振ることができれば可。
		第6章 てびき	全く本教と縁のなかった者が如何にして導かれ入信するのか。	自分の家の信仰の元一日を振り返り、それを通して「節（身上・事情）」「親心」ということについて考える。	「節」「親心」ということに対する受け止め方が理解出来ているかどうか。
	5	▼おてふり 7下り目	▼正しい手振りと足の運び	▼繰り返し練習（鳴り物含む） 3～4時間実施（テスト含む）	▼地歌暗唱の努力。正しい手振りと足の運び（特に八ッ、九ッ）
		第7章 かしもの かりもの	身上「かりもの」の理を思い「ほこり」を払い、「いんねん」を悟り、その納消の為に親神様に凭れて通ることの大切さ。	日々の生活を元気に通らせて頂いていることから、身上「かしのもの・かりもの」について触れ、心一つが我がの理ということから「ほこり（八つのほこり）」へ、そして「出直」へと発展させる。「いんねん」についての簡単な説明。	「かしのもの・かりもの」の理と「出直」ということに対する理解。八つのほこりを覚える。
		▼おてふり 8下り目	▼正しい手振りと足の運び	▼繰り返し練習（鳴り物含む） 3～4時間実施（テスト含む）	▼地歌暗唱の努力。正しい手振りと足の運び（特に三ッ、九ッ）
	第8章 道すがら	成人の道への歩み方特に「たんのう」「ひのきしん」「誠真実」について学ぶ	身上・事情の受け止め方（たんのう）と、信仰の喜びの行動化（ひのきしん）について「みかぐらうた」（5カ所）から学び、そこから生まれる「誠真実」についても触れる。	「たんのう」「誠真実」「ひのきしん」について説明出来ること。	
6	▼おてふり 九下り目	▼正しい手振りと足の運び	▼繰り返し練習（鳴り物含む） 3～4時間実施（テスト含む）	▼地歌暗唱の努力。正しい手振りと足の運び（特に一ッ、二ッ、三ッ、四ッ、六ッ、九ッ、十）	
7	月				

二 学 期	9	第9章 よふぼく 第10章 陽気ぐらし	これから迎える「よふぼく」としての自覚と心構え。 ▼正しい手振りと足の運び	来年2月から初席（別席）を運ぶということから、入信し、「別席」を運び「よふぼく」（おさづけ）・「教人」「教会長」となり、名称の理をいただくまでの過程に触れ、「よふぼく」とは、という事や、所属する教会の事、布教についても考えを広げたい。 ▼繰り返し練習（鳴り物含む） 3～4時間実施（テスト含む）	「別席」について説明が出来ること。「さづけの理」「教会名称の理」についての理解。 ▼地歌暗唱の努力。正しい手振りと足の運び（特に五ッ、七ッ）
	10	「おふでさき」概説 「おふでさき」第1号（1～20、21～28、29～50）	人生究極の目的である「陽気ぐらし」とはどのような世界をいうのか。 教典のまとめを確認する ▼正しい手振りと足の運び	現代社会の様々な出来事から親神様が共に楽しみたいと思われた「陽気ぐらし」を考え、心の在り方（ひながた）、「一手一つ」ということ、「心のきりなしふしん」の大切さを学ぶ。 ▼繰り返し練習（鳴り物含む） 3～4時間実施（テスト含む）	真の「陽気ぐらし」ということへの理解。P98L3～P100L5を熟読し、2年間かけて学んできた事が理解出来ているかどうか。 ▼地歌暗唱の努力。正しい手振りと足の運び（特に一ッ、二ッ、十）
	11	「おふでさき」第1号（51～57、58～74） ▼おてふり 10下り目	「おふでさき」とはということへの理解 ▼正しい手振りと足の運び	「おふでさき」を引用し、「おふでさき」の位置、定義（執筆の期間・教祖の直筆、和歌体）について正しく学ぶ。表記・詠み方についても確認する。 ▼繰り返し練習（鳴り物含む） 3～4時間実施（テスト含む）	「おふでさき」とはということについて正しく説明出来るか。 ▼地歌暗唱の努力。正しい手振りと足の運び（特に一ッ、二ッ、十）
	12		各お歌の正しい詠み方と、意味の理解。そして、「おふでさき」の正しい学び方（中心的話題を主としながら）。	第1号をその内容（話題）に従い、大きく5つに区分し、各歌を正しく詠み、意味を理解しながらも、それぞれの話題（立教の意義・「つとめ」と布教伝道・やしきのそふぢ）について確認していく。	1～20の「立教の意義とつとめ」についての理解。29～50の「やしきのそふぢ（史実）」についての理解と、お歌の正しい詠み方の確認。
三 学 期	1	「おさしづ」（概説） ▼おてふり 11下り目 「おさしづ」（内容理解）	各お歌の正しい詠み方と、意味の理解。そして、「おふでさき」の正しい学び方（中心的話題を主としながら）。	29～50で話題となった「やしきのそふぢ」に続いての話題となっている58～74（秀司様のご結婚）について確認し、それを積極的に推し進められた教祖の思召を理解する。（正しい詠み方と歌の意味の理解も含む）	58～74に示された史実の確認と、その事に対する教祖の思召をしっかりと理解出来ているか。お歌の正しい詠み方の確認。
	2	▼おてふり 12下り目	れば、「おふでさき」の中 「おさしづ」についての理解。 日常生活でも活かせることの出来る「おさしづ」の内容理解を求める。	にある内容理解の難しいお歌について解 教祖と本席様（お立場について）からの「おさしづ」が筆録された期間。また、「刻限のさしづ」と「伺いのさしづ」についての確認。 テーマに沿った「おさしづ」を各担当が選びまとめ、そのプリントに従いながら内容理解と実践を促す。	説する。》 「おさしづ」について正しく説明出来るか プリントで示された「おさしづ」の内容理解が正しくできているかどうか。

その他（履修上の留意点など）

○3類の「おてふり」については習熟度を確認しながら進め、12下り目まで終わらすことのみならず力点を置かず、出来ない箇所（下り）を教祖から教えられた通りに“手振り”“足を運ぶ”ことを年間活動の柱としたい。